

第8回 里山シンポジウム 全体会 プログラム 資料集

里山に託す私たちの未来
第8回里山シンポジウム



2011年テーマ

里山 里海と食

～いすみ 夷隅の根っこから元気に～

全体会

2011年

5月22日(日) 10時～16時

会場:いすみ市夷隅文化会館

基調講演・車座意見交換会

屋外テント村「夷隅のうまいもの食っちゃおー」

夷隅(いすみ)の楽しい場所めぐりツアー(21日(土))



テーマ題字: 倉島貴浩 デザイン・イラスト: 松下優子

主催 里山シンポジウム実行委員会・千葉県・NPOちば里山センター
共催 いすみ市
後援 御宿町・NPO千葉自然学校

第8回 里山シンポジウム 全体会

本年度のテーマ

里山は、多くの生きものの命のゆりかごでもあり、命のにぎわい（生物多様性）が見られる場所です。

しかしながら、オーバーユース（資源の過剰摂取）とアンダーユース（手入れ不足）の同時進行によって、極めてアンバランスな状態に置かれています。その結果、里山の荒廃と消失が進んでしまいました。

そこで、今年度の全体会は、里山からの恵みを「食」という切り口から考え、私たちの暮らしに欠くことができない地域の資源の価値を再確認し、地元力の見直しを進めたいと思います。

さらにその上で、里山に新たな価値創生もたらすような、新しいライフスタイルの創出や、自由な天地求めて移り住む若者たちの動きについても考えてみたいと思います。

コハクチョウが飛来する
いすみ市のため池と里山

いすみしトンボ池のコハクチョウ
布留川さん撮影



万木城址から見たいすみ市夷隅地区の
里山景観

プログラム

9:30~10:00 受付

(敬称略)

10:00 総合司会

里山シンポジウム実行委員会
千葉県森林課
いすみ市 市長 代理

代表

課長

副市長

鈴木 優子

金親 博榮

向後 宏保

渡辺 雅文

10:20 基調講演者の紹介

金親 博榮

10:30 基調講演

「やればできる 2億から 75億への成長の軌跡」
富里市農業協同組合常務理事

仲野 隆三

11:45~13:30

昼食・休憩・ポスターセッション

13:30 第8回里山シンポジウム 車座意見交換会

1 農林水産業の6次産業化をどう具体化するか

金親 博榮・田中 収

2 いすみの食材があふれる食卓

佐藤 聡子・中村 松洋

3 里山景観と森と海・グリーンツーリズムに必要なこと

栗原 裕治・伊藤 幹雄

4 耕作放棄地と遊休農地の再生と

木下 敬三・中村 俊彦・林 みね子・戸張 七重

5 新しい里山の価値の創出

(オーガニック、ウーファー、サーファー) 自由な天地を開く若者たち

手塚 幸夫・松永 美知子・鈴木 優子

15:00 全体会総合討論とまとめ

手塚 幸夫

15:50 里山シンポジウム実行委員会 分科会開催の報告

事務局

荒尾 稔

16:00 閉会の挨拶

副代表

栗原 裕治

主催者挨拶

里山シンポジウム実行委員会代表 金親博榮

本日は、第8回里山シンポジウムにご参加頂き有難うございます。昨日に引き続き参加下さった方もおいでですが、いすみ市へは、観光を目的にこられた方も多くいらっしゃるかと思われま。本シンポジウムによろそお越し下さいました。



開会に先立ち、今回の東日本大震災によって被災し、亡くなられた多数の方々に、黙禱をささげ、冥福を祈りたいと思います。どうぞご起立下さい。

第8回までの開催経過

今回で8回目を迎える本シンポジウムは、2004年千葉県里山条例の施行を期してスタートしたものです。条例は、市民の里山保全への関心や意欲を、里山を提供する地主の意思に合致させ、2者間の利用協定を県が認定し、資金面でも支援し、安定的、継続的な里山の活動を担保し、一層活発な活動を引き出そうとしたものです。さらに、個々の里山活動団体を支援する中間支援組織として ちば里山センターが設立され、市民による里山保全活動は年々活発になってきております。

本シンポジウムは、毎回、分科会とその集大成となる全体会から構成されてきました。分科会は、5月18日の「千葉県里山の日」を中心に県内各地で開催されています。これら一連の取り組みは全国でも稀有な活動として評価されているときいています。

全体会は、第1回木更津市、第2回我孫子市 第3回八千代市 第4回東金市 第5回千葉市 第6回佐倉市 第7回市川市で開催してきました。各々の自治体や、大学などの協力を頂き、「里山に託す私たちの未来」を共通のテーマとし、「里山と子ども」「里山とゴミ」「里山となりわい」「里山と命のにぎわい」「里山と食料・水・木材」「里山と都市」を各回のテーマとして、里山の魅力や問題を様々な角度から切り込んできました。

なぜいすみか

里山里海の保全、再生は、そこに住む人々が、まずは地域の素晴らしい資源を認識し、次にこれをいかに持続的に活用して「なりわい」に結び付けていくかが問題解決の一つのポイントであると考えます。

いすみ地区では、地元の農業・漁業に従事する方々ばかりでなく、新たにこの地に移り住んだ人々も地域の恵みを生かし新しい試みをおこなって成果をあげていらっしゃると思います。里山里海の恵みがずっとこの先も持続可能なものとなるよう、この機会に学び・体験し、食を楽しみ、すばらしいいすみを外部に発信していただくことを皆さまに期待します。

大震災のこと

大地震、さらに原子力発電所の事故もいまだ収束の兆しが見えない中、自然の脅威とヒトの存在、人知のはかなさ、日常生活の尊さ、家族や友人の大切さ、食料、燃料、水、空気、エネルギー源の選択と消費、過疎と過密、短期的な選択と長期的な損益、分散と集中の是非、経済的合理性というものの考え方 文明の力、科学の力・技術の過信と限界、助け合いとボランティア、地域コミュニティなどなど、そしてこれらすべてを包含した私達の生き方、暮らし方にまで深く思いを馳せた方々が多いことと思います。

人は元来、自然によって生かされてきました。緑の森林、田や畑、村里につながる里山・豊かな里海に支えられ、癒され、安らぎを得てきたのです。山から川へ、川から海へ 間断なく連なる豊かな連鎖を断ち切ることなく守り育て、子や孫に引き継いでいかなければなりません。

今回のテーマは「里山里海と食」ですが、これは震災前から話し合ってきたものです。しかし図らずも私たちは今、里山里海の大切さを改めて認識する機会を得ました。

「今だからこそ」、自然といかにつきあうか、里山の恵をどう生かすかを、皆さんとともに考えていきたいと思えます。

本日のスケジュール

生物多様性とこれを支える里山については、昨年10月名古屋で開かれたCOP10国連生物多様性条約第10回締約国会議で議論され、その重要性が改めて世界に発信されました。それを支えるボランティア活動は、「出来る人が、できる時に、できるだけ的事をする」ものですが、その大切さを改めて噛みしめたいと思えます。ローカルな活動をグローバルにつなげる、その双方とも欠くことのできない車の両輪です。

本日は、仲野隆三先生の基調講演に学び、日本の、千葉県のローカルを担う心意気で、本日の会を活用いただきたいと思います。講演の後5つの車座分科会を予定しております。それぞれのテーマは、「農林水産業の6次産業化」「いすみの食材」「里山景観」「耕作放棄地と遊休農地の再生」「新しい里山価値の創成」です。膝を突き合わせとことん議論して実りある結果が得られますよう期待しています。

今回、いすみ市、御宿町のご協力の下に、NPO法人千葉自然学校、千葉県等の関係各位のご尽力、特に地元の方々の絶大なる協力があってこのシンポジウムを開くことができました。敬意と感謝の思いを申し上げ、第8回里山シンポジウム並びにNPO法人ちば里山センターの代表としての言葉とします。

基 調 講 演

仲野隆三氏 プロフィール

JA富里市常務理事 1949年生まれ。44年に富里村農協に入組以来、営農・経済部門を担当し、平成15年から常務理事。「JAと食品産業を繋ぐコーディネーター」として、JA販売事業に従来の枠を超えた新しいビジネスモデルを創出し、生産者の意識改革と地域の活性化をはかってきた。

「農業は販売先を確保しないと担い手は育たない。産直も含めてどのように販売提案するか。毎日異業種との交流に触発されることがエネルギーになる」を胸に、一次産業復興のため活動中。



地球温暖化に関しても、以下が持論

20世紀は化石燃料と森林資源（パルプ等）に依存した高エネルギー消費社会構造であった。大量消費社会は産業廃棄物の廃棄により環境悪化やエネルギーロスをもたらし、人間の生き方まで変えてしまった。

21世紀は資源の再利用と循環型社会システムの構築が強く求められる。新たな産業革命は日本から発信せよ！

車座意見交換会

- 第1グループ 農林水産業の6次産業化をどう具体化するか 会場 和室
- 第2グループ いすみの食材があふれる食卓 会場 工作室
- 第3グループ 里山景観と森と海 ・ グリーンツーリズムに必要なこと 会場 研修室1
- 第4グループ 耕作放棄地と遊休農地の再生と 会場 研修室2
- 第5グループ 新しい里山の価値の創出 (オーガニック、ウーファー、サーファ -)
・・・自由な天地を開く若者たち 会場 茶室・作法室

農林水産業の6次産業化をどう具体化するか

会場 和室

担当 金親博榮 田中 収

趣旨 6次産業化とは 農業などで、生産から流通までの工程を取り込む事。

農業、水産業は、産業分類では**第一次産業**に分類され、農畜産物、水産物の生産を行うものとされている。だが、**六次産業**は、農畜産物、水産物の生産だけでなく、食品加工(**第二次産業**)、流通、販売(**第三次産業**)にも農業者が主体的かつ総合的に関わることによって、加工賃や流通マージンなどの今まで**第二次・第三次産業**の事業者が得ていた付加価値を、生産者が得ることによって農業を活性化させようというもの。具体化へのステップとしては、通常、現状、地元の資源の認識・発掘
将来の理想 これに至る道筋

キーワードの例：農業のブランド化、消費者への直接販売、レストランの経営、

- 1 日本の食市場は縮小、特に国産の農林水産物の市場規模減少の中多様な差別化の取組みがある。
- 2 6次化の取組みは、川下の食品産業が主導する形で農業に浸透。産地サイドでも大きな発展を遂げる農業法人等が増加
- 3 川下主導の取組みは、地域農業や地域経済全体の振興という点で不十分。地域の所得・雇用を広げ、食の市場全体を拡大、豊かにしていく地域を強くしていく必要
- 4 地域全体の活性化につなげる戦略や「担い手」が明確になっていない。
- 5 大手企業が手を出せないようなローカルなニーズをとらえた商品開発。また商品・サービスに文化・歴史、福祉、環境等、地域に内在する価値や課題を非物質的価値として織込む取組みが有効。
- 6 取組み参加者全員の自発的な協働がビジネスの成功要因となる構造がある。一方、ソフトな資本の強みを生かすためには、販売や設備のための一定のハード投資も必要
- 7 誰がやるか。農協もその一つ。「地域に農業がある」ことのメリットを地域全体で共有し6次産業化を広げていくことは、農村から日本社会全体のあり方を組み替える可能性を持つ

「理屈は分かった。でも、やる時間はあるのか。成果は上げられるのか」

日中に農作業をして、夜に食品加工をすることはできるかもしれない。

しかし、商品売りに営業に行けるか？ 配送まで手が回るか？ インターネット通販に挑戦したり、漬物やパンなど加工食品を作っている例は多いが、成功したと言えるものは多くない。オランダは大きな国ではない。人口が1660万人、国土は4万1000平方キロメートル。農地面積は日本の4分の1。オランダ農業が強い秘密は、加工貿易のためである。近隣から飼料用の小麦を輸入して家畜を育て、畜産物を製造し、それを輸出する。トン当たり小麦は342ドル、チーズは5652ドル、豚肉は2780ドル、トマトは1186ドル

仲間の活動例1：「四季菜」

NPO法人「そとぼうわーど」での里地・里山の再生活動から、耕作、販売へと持続可能な農的ライフスタイルを構築するための一部として開店したのが「四季菜」。主にいすみの里山・里海からの恵みを使用し素材・調味材にこだわる商品開発・販売を行う t-sam@soleil.ocn.ne.jp

〒299-4502 いすみ市岬町中原 27-5 Tel/Fax - 8348 田中収 080-1101-0217

仲間の活動例2：「わたしの田舎」谷当やとう工房・谷当グリーンクラブ

都市に隣接した農村千葉市谷当町の自然と環境を守りながら、地元の農産物を原料とした味噌教室、里山体験、市民農園、キャンプ場、レストラン等 <http://www2.u-netsurf.ne.jp/~chibaygc/> 〒265-0072 千葉市若葉区谷当町 70 TEL / FAX 043-239-0645 金親博榮 090-4678-8357

第8回里山シンポジウム車座意見交換会 第2グループ

いすみの食材あふれる食卓

会場 工作室

担当 中村松洋、宮内陽子、佐藤聡子

趣 旨

いすみ市は自然環境にめぐまれた伝統文化の絆があるふるさとです。そして、里海、里山のめぐみから豊かな食卓を作っています。いすみ市の沖は、黒潮と親潮がぶつかることからも宝の海と言われてきました。特に、伊勢エビは全国屈指の漁獲があります。魚や生きものにとっても住みやすい器械根という（砂場と岩場の入り組んだ）地形があることから、伊勢エビ、サザエ、アワビ、タコ、イワシ、アジ、タイ、イナダ、スズキ、ウマヅラハギ、イサキ、フグ、ホウボウなどが生息しています。

また、豊かな森林にかこまれた里山からのめぐみは食卓をさらに豊かにしてきました。温暖な気候から果実の実りにもめぐまれています。伝統食文化をさらに豊かな食文化にすることは人と人がつながり、知恵のかけ算をすることだと思えます。

今だからこそ！伝統の料理に学び

さらに豊かな食卓の文化を語り合いましょう！

違った目でいすみの食材のめぐみを知り、

食卓のメニュー加えましょう！

加工食品の（よい案）もできるかもしれません

タコ飯や味噌入りさ
つま揚げの味が忘れ
られない！（佐藤）



「生物多様性食文化料理教室」
いすみ編より写真提供

里山景観と森と海：グリーンツーリズムに必要なこと

会場 研修室1

担当 伊藤幹雄、栗原裕治



趣 旨

グリーンツーリズムに定義はあるの？ 地球上には、地域の数ほどのグリーンツーリズムがあるはずである。もちろん夷隅地域にも夷隅のスタイルがあるはずだけど、それってナニ。

まず、夷隅という名前からは縄文時代からの悠久の歴史が感じられる。日本列島の豊かな自然を有する千葉県で、外部との熾烈な摩擦もなく平和に暮らしていた古代の日本人のイメージが浮かんでくる。温暖な気候、海、川、森の自然の恵み、そしてそれらを活用してきた生活や食文化。考えてみると、夷隅は現代人の求めている理想郷なのかもしれない。少なくとも理想郷の要素がぎっしり詰まった資源がある。

この意見交換会では、最初に千葉県のグリーンツーリズムの現状を報告してもらいグリーンツーリズムのおよその概念を共有します。そして、実践者に夷隅地域での活動を紹介してもらいます。ここからは、お堅い概念を破壊するようなちょっと破天荒で自由な意見交換を考えています。

議論の内容 プログラム

- (1) 千葉県のグリーンツーリズム (社)千葉県観光物産協会
- (2) 夷隅の活動事例紹介 NPO太東埼燈台クラブ(灯台を拠点に環境保全、美観促進、イベント開催や、ツアーガイド、マップ作成、物産販売などを実施)
- (3) 夷隅の活動事例紹介 NPOいすみライフスタイル研究所(いすみ市への移住・定住促進を目的に体験ツアーや移住希望者への相談などを実施)

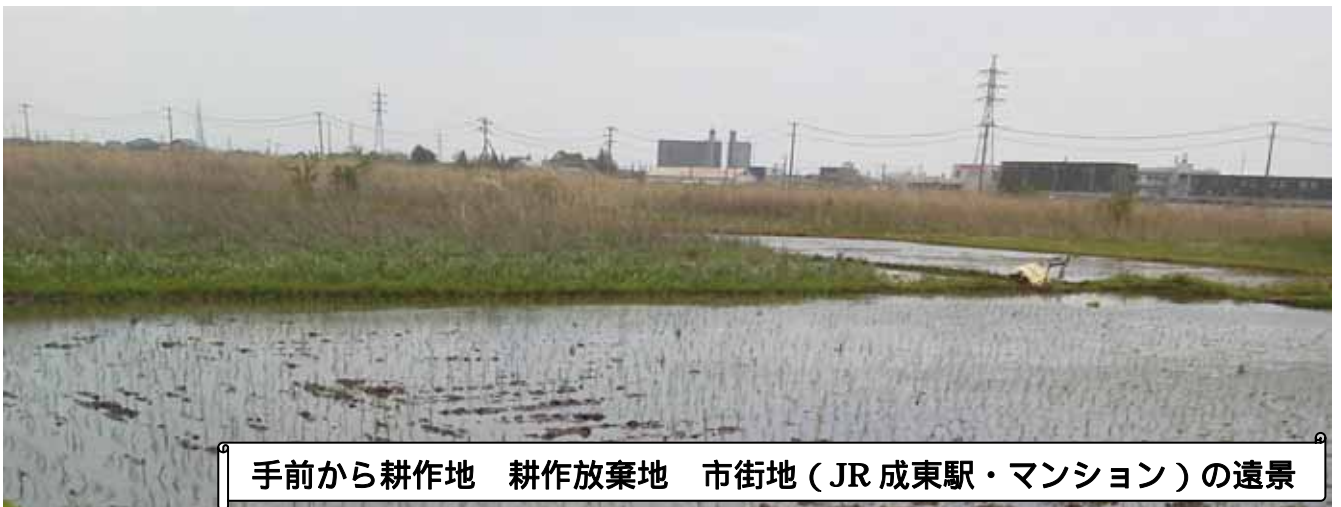
耕作放棄地と遊休農地の再生と利用

会場 研修室2

ゲストコメンテータ 廻谷義治(NPO 法人 千葉県市民農園協会 理事長)

コメンテータ 中村俊彦(県立中央博物館副館長)

担当 木下敬三、戸張七重



手前から耕作地 耕作放棄地 市街地 (JR 成東駅・マンション) の遠景

趣旨

食糧は全て土地から生れます。土地を耕し種を播き、地の養分・日光・水・時間を与え育ちます。出来上がった植物性食糧を与えて、動物性の食糧を得ます。土地が無ければ動物も生きていけません。祖先から永い間、耕してきた食糧生産地が今、荒れてきています。

終戦直後の食糧自給率は1説によると70%以上有ったそうです。それから60猶予年、飽食の現代、今は40%以下とか、不思議ですね。戦後教育で忘れられた『農』自分の食糧生産を怠る民族は絶滅すると説く人も居ます。エネルギーの問題も同じ傾向にあるようです。

食糧を輸入して食べ残し、腐らないうちに捨て、国内には、食糧を造る場が、俗に言う『耕作放棄地』『遊休農地』としてドンドン増えています。輸入関税撤廃のTPPに反対して、自分で食べる食糧の増産を考えない日本って、何なんでしょうね？

ここで、真剣に『耕作放棄地』『遊休農地』を考えていきませんか？単なる食糧生産だけでなく、『農』が有する、教育・癒し・福祉・景観・保水・緑地保全・CO2吸収・・・あらゆる場面の『効果』も考えていきます。今直ぐ解決する問題でもありませんが、将来の日本のために、みんなで新しい『農』の形を探っていきましょう。

議論内容

耕作放棄農地の解消法 耕作放棄の現状 耕作放棄の原因 耕作放棄の解消方法

時間割

0~20分 参加者全員の意見をいただきます。20分~60分 現況報告を中村様より、解決策の1方法としての市民農園について、廻谷さまより。60分~90分 これからの方向を全員との意見交換

新しい里山の価値の創生

・・・オーガニック、ウーファー、サーファー

自由な天地を開く若者たち

会場 茶室・作法室

担当 手塚幸夫、松永美知子、鈴木優子

趣旨

今、新しい里山の価値の創造をめざす若者たちが、夷隅地域で、そして、千葉県各地で注目され始めてきています。

彼らから、「新しいライフスタイルの創出」、「自然の中で生きる」、「循環型地域社会作り」、「自給自足」、「有機・無農薬」などといった言葉が聞こえてきます。そして、そんな自由な考え方、生き方から、これからの里山里海に、新しい風とともに自由な天地を拓くきざしを感じられます。



議論内容

里山・里海に見られる新しい動きについて、サーファー、ウーファー、オーガニックという言葉 키워ドにして話し合いたいと思います。話し合いは、次の流れをイメージしています。

房総のサーファー・・・その歴史は40年

サーファーと里海、そして里山

ウーファー・・・、農的な旅人という視点から見ると

生産でも消費でもオーガニックが基本となる地域はできるのか

サーファー、ウーファーたちの動きは、新しい里山の創造に繋がっていくのでしょうか。さらに、放射性物質による汚染が心配される中で、オーガニックを基本にした農産品の生産がどのような意味を持つのかについても、考えてみたいと思います。

第 8 回里山シンポジウム実行委員会 分科会のご案内

分科会名	テーマ名	会場	開催日時	代表者	趣旨
里山と森林・林業	木を植える市民になろう	東京都現代美術館	7月2日～10月2日の会期中	さんむフォレスト 代表 稗田忠弘	孤高の羊飼いにによって蘇る森林の物語、フレデリックバックのアニメーション「木を植えた男」は私たちの心を揺さぶり奮い立たせる。山武の繁栄を鬱蒼と茂る山武杉の森林の姿に見て、山武林業の発展に情熱を傾けた誇り高い先人を思い出し、心の中に眠っている美しかった森林の記憶をよみがえらせながら、私たち一人一人が未来のために「木を植える市民」になろうと呼び掛ける。
里山と伝承技能	市民農園 里山伝承技術の講座	山武市成東文化会館のぎくプラザ視聴覚室	7月下旬	さんむ・アクションミュージアム 代表木下敬三	JR 成東駅前市民農園『くろ』の開設準備中です。成東駅北口は都市計画の地ですが、耕作放棄の芦原が広がります。この1部を市民農園に開発中です。市民農園は耕作放棄対策や景観保持、都市住民の憩いの場、癒しの場になります。市民農園開設に当りシンポジウムの開催をします。
地域の里山環境を再構築	「農法と工法」ものつくりと販売の循環。地域の市民の自立した事業	Qiball (きぼーる)を予定	10月上旬ころを予定	里山里海自然づくり事業をする会 代表 荒尾稔	若者の雇用になる仕組みに構築する、積算根拠をもとに資格取得により医療(個人)、福祉(人の集団)同様に若者が、環境(地域や国土や地球)への関わりを仕事として取組めるように。 里山の再生に事業者ベースで実践活動として取り組む。集落単位での「冬期湛水不耕起栽培」農法。2000年以上継続している石積工法+「ランチブロック工法」などによる河川や用水管理技術。水確保のため池や井戸の再構築など。これからの地域再生に欠かせない技術再構築の生物多様性、将来性、採算性を検証する。 「里山里海自然づくり事業をする会」を中心にして、各地の農業・福祉・建築などを複合的に取り組み、過去20年以上の構築実績と実証済みの無農薬農法や石積工法を中心に、横断的に組立て運用される技術の地域再生への提案と意見交換
里山と森づくり	土砂採取跡地の森復元	千葉市緑区小山町観音地及び周辺	5月28日 11:30-13:00	千葉市板倉大椎土地改良区/緑の環・協議会代表 石谷栄次	昨年に引き続き、今年は小学生の皆さんと一緒に育てて来た苗の植林と平和のシンボル被爆アオギリ二世の並木造りで「グリーンウェイブ運動」に参加。国際生物多様性の運動と、今年は日本中、世界中の人と国際森林年をお祝いします。震災と原発の被害が広がる中で、被爆アオギリの並木をつくる試みと森づくりをしながら、子供たちが基地作り、池で泥んこ遊び、たき火・火遊びなど凡そ学校や公園では体験できない遊び場として、森づくりパークについて話し合います。
里山と医療・福祉	県内6ヶ所で森林療法(セラピー)	県内各所	2011/4/17(日) 中止 5/15(日) 開催済み 6/12(日) 9/18(日) 11/20(日) 2012/2/12(日)	代表 赤城建夫 林みね子	障がいのある人も無い人も、森林の中を皆で時間をかけて歩くことにより、リラックス&癒し効果を得られる内容のプログラムを実施いたします。 船橋県民の森 中止 清和県民の森 開催済み 館山野鳥の森 東庄県民の森 大多喜県民の森 内浦県民の森
里山と竹	竹林整備の必要性	四街道市中央「赤い花と白い竹園」	8月13日(土) 13:30～15:00	NPO 法人竹研究会 代表 田代武男	当研究会は平成18年設立後、竹の特性研究と竹の有効利用を考え「竹林セラピー」を提案。竹林は日本人であれば、一度や二度、竹の葉のサラサラと擦れあう音や竹の葉の青々とした美しさは、森林に勝とも劣らない癒し効果があり、竹を竹林セラピーの対象として提案。

					また竹の価値を高めて、アジア特に中国から大量輸入を抑える競争力ある美味しい「たけのこ」の開発が必須と考え、「黄金たけのこ」を商品化。えぐみなく、歯ごたえ良く、軟らかく生も食べられ美味しいと評価を得る。これを商品化して竹を有利な換金商品として生かして農家の手入れ促手法。
里山とフィールドミュージアム	第3回・三番瀬フィールドミュージアム観察会	問い合せ先 佐藤	/3/20(日) 3/21(祭) /6/17-1週間 7/18(日) 8/28(日) 10/15-16	三番瀬フィールドミュージアム 代表 佐藤聡子	及び は、東北関東地震にて中止に。 6月18日から1週間縄文時代と海辺を繋ぐ千葉県立中央博物館と飛ノ台史跡公園博物館 7月18日(日)植物と昆虫の観察会千葉県立中央博物館(専門家)三番瀬の砂浜 8月28日(日)箱眼鏡デ海の中を観察!谷津干潟ミジンコ倶楽部協力 三番瀬の海 9月or11月(予定)プランクトンの観察会、秋の底生生物の観察会、谷津干潟ミジンコ倶楽部協力、千葉県立中央博物館、三番瀬の砂浜 or 江戸川河口 10月16日(日)秋の川・森の観察会 (財)日本生態系協会千葉県立中央博物館海老川~金杉の森へ 12月4日 or11日 三番瀬冬の観察会 千葉県立中央博物館、千葉県野鳥の会 三番瀬とつながる7000年前、飛ノ台貝塚と縄文人のくらしと文化とき
里山とキャンプと里山計画を語ろう	里山の山菜を食べよう	「わたしの田舎」矢当工房 & 矢当グリーンクラブキャンプ場	2011年5月3日(憲法記念日)10:00現地集合~16:00	矢当里山プロジェクトチーム 佐藤 矢当工房	矢当里山計画を語ろう! 矢当町の環境は、千葉県若葉区のおくに位置する里山の原風景のあるところです。周辺には、東京情報大学・川村記念美術館・歴史のみえる御成街道・千城台住宅街。千葉駅からバス40分(450円)・東京駅から高速バス60分。終点御成台から徒歩15分。万歩計お持ちの方、最適な里山散歩ができます。
森のお茶会	「森の活用」	下泉・森のサミット	2011年5月14日(土)	下泉・森のサミット 鈴木優子	5月14日に開催されました
里山とまちづくり	里山を生かしたまちづくりワークショップ	会場未定	2011年7月中に開催をする。	亀成川を愛する会 事務局 小山尚子	都市近郊にある里山を保全するためのシステムの模索と手法の実施。都市近郊の里山は、荒廃と開発圧力、両方の危機にさらされている。市民参加と地元理解による協力がかせない。また都市から緑豊かな農村への中継地として、緑のコリドーを確保することが緊急の課題となっている。これまでの活動団体事例を参考に行政、市民、企業を巻き込む活動とする。
里山と生物多様性バンキング	里山バンキングを考える	会場未定	2011年7月中 2011年9月中 2011年11月中全3回を計画。	東京都市大学大学院環境情報学研究科 田中章 研究室 久喜伸晃	「里山バンキングとは、開発で壊れてしまう自然をあらかじめ他の地(近傍の里山など)の里山生態系の保全や復元活動などを通じてバンキングしておいて(クレジット創出)、これを開発の場で失われる自然と相殺し埋め合わせる(オフセット)ことで、地域の自然環境の総量を保つための一助とするシステム。生物多様性と里山の新しい保全・維持とを併せて持続可能をめざす。経済的メリットも提案。

日程・内容の詳細が決まっていない分科会

確定次第、順次、里山シンポジウム公式HP上で公表していきます。

分科会名	代表者	分科会名	代表者
里山と野生動物	中野 まきこ	里山と政策	小西 由希子
里山と里海	手塚 幸夫	里山と水循環	桑波田 和子
里山と残土産廃と空散	井村 弘子	里山と生物多様性	加藤 賢三
里山と農業	金親 博榮	里山と東日本大震災	木下 敬三

里山シンポジウム全体会 パネル展示団体（展示場所：玄関ホール）

no	内容	団体	担当者
1	里山と生物多様性バンキング	東京都市大学環境情報学部 田中章研究室	磯山知宏、萩谷拓郎
2	三番瀬フィールドミュージアム in 飛ノ台	フィールドミュージアム・三番瀬 の会	佐藤聰子
3	団体紹介	八千代市ほたるの里づくり 実行委員会	桑波田和子
4	社会的事業者等訓練コースの受講者募集	NPO 法人千葉まちづくりサポート センター	栗原裕治
5	団体紹介	NPO法人ちば里山センター	金親博榮
6	団体紹介	谷当グリーンクラブ	金親博榮
7	団体紹介	下泉・森のサミット	伊藤博子・渡辺栄一
8	生物多様性に関する公開シンポジウム	東京情報大学	原慶太郎
9	団体紹介	さんむ・アクションミュージアム	木下敬三
10	里山条例、国際森林年等	千葉県森林課	西野文智
11	里山里海の生態系評価と CBD・COP10報告	千葉県生物多様性センター	中村俊彦
12	団体紹介	里山里海自然づくり事業をする会	荒尾 稔
13	団体紹介	さんむフォレスト	稗田忠弘
14	被災地支援報告	牛8仲間	手塚幸夫
15	夷隅郡市の自然から	夷隅郡市自然を守る会	大藪 健
16	団体紹介	NPO 法人千葉自然学校	金親博榮

会場のご案内図

